

汚濁負荷量測定記録表の記載方法

この表は、水質汚濁防止法第14条第2項の規定により、排出水の汚濁負荷量を記録するための様式です。3年間特定事業場に保存しなければならず、立入検査の際にその提示を求められます。

記録は電子媒体によることができ、必要事項（測定年月日、測定者、計測場所、計測時刻、汚染状態、排水量、汚濁負荷量）が記載されていれば任意の様式を利用できます。

なお、3項目を一表にまとめて記録する場合は、事前に様式についてご相談ください。

測定場所毎に1欄ずつ記録してください。

測定場所が複数ある場合は、当該測定日の最下欄に汚濁負荷量の合計値を記録してください。

1. 測定年月日

実際に計測を実施した年月日を記入してください。水質の分析日ではありません。

両日にまたがって測定を行う場合は、測定時間の長い日を記入します。

2. 測定者

自動測定の場合：記入は不要です。

それ以外の場合：水量・水質の計測を実施した者を記入してください。

3. 場所

法第14条第3項の「手法届出書」に記載された記号または名称としてください。

4. 時刻

自動計測の場合：測定の開始・終了時刻を記入してください。

例：0 ~ 24

自動計測以外の場合：水質は採水の時刻を、流量は読み取った時刻を記入します。

例：上段：9, 13, 17 水質測定 (=採水) 時刻

下段：9, 11, 15 水量測定時刻

同時刻の場合は1段のみ記載してください（例2）。

例：9, 13, 17

5. 化学的酸素要求量・T-N・T-Pの測定方法

- ・連続測定
- ・指定計測法
- ・簡易計測法

以上のいずれかの内「手法届出書」により届出した方法によらなければなりません。

なお、指定計測法及び簡易計測法による場合は、平均的な水質が得られる時間帯に

一日に3回以上採取した試料を、単独又は混合して分析してください。

雨水を除外（届出最大水量を超過した場合）する補正を行った場合は、

「負荷量」÷「水量」により再計算してください。

6. 排水量

排水量の当日分の実測値を記入してください。

連続記録以外の場合は、当日分が把握できる適切な範囲で行ってください。

例：当日9時～翌日9時、前日17時～当日17時 等

7. 汚濁負荷量

1日あたりの汚濁負荷量を以下のとおり記入して下さい。

化学的酸素要求量・T-N：小数点第1位まで（小数点第2位以下を切捨て）

T-P：1日あたりの汚濁負荷量を、小数点第2位まで（小数点第3位以下切捨て）

この値は測定機器の故障等、異常原因が明らかな時を除いて補正してはいけません。

8. 操業率

通常の操業時間において、操業率が最も高い状態を100%としてください。

し尿浄化槽の場合は記入不要です。

9. 備考欄への記入事項

備考がある場合に以下のとおり記入してください。

・換算式を変更した場合

例：換算式 $Y = aX + b$ に変更

・降雨により排水量及び水質の変更を行った場合

例：降雨 Q 1,500 → 890, C 15 → 23

・欠測、機器の故障等

10. 測定頻度

測定は次の頻度で実施してください。

通常排水量 (m ³ /日)	頻度
400以上	連続測定
200以上400未満	7日に1回
100以上200未満	14日に1回
50以上100未満	30日に1回